

足立区議会議員 古性 重則 様

足立区議会議員 13 番 くじらい 実 印

一 般 質 問 通 告 書

今定例会に下記要旨の一般質問を行いたいので、会議規則第59条第2項の規定により質問通告書を提出します。

記

行政区分	質問の要旨
<p>1 都市建設行政</p>	<p>I.竹の塚エリアのまちづくりについて</p> <p>いよいよ待ちに待った3月20日に竹ノ塚駅が高架化され、踏切で遮断されていた東西の町が一つになる時がやってきた。平成24年11月の起工式から現在の間まで、電車を走らせながらも9年4ヶ月の月日で駅が高架化された背景には国・東京都・足立区の行政のみならず、事業者や地域の皆様が一体となって高架化事業に取り組んでこられた賜物であると確信している。そして、駅の高架化が事業の終わりではなく、これからが本当のスタートだと考えている。</p> <p>①新駅舎は3月20日当日の初列車からの供用開始と聞いている。いよいよ悲願である駅の高架化を迎える日であり、コロナの感染状況も見据えながらも何か記念のイベントを、とお願いしているところであった。6月12日に改めて記念式典を開催する予定だと交通網・都市基盤整備調査特別委員会にて報告があった。現在、記念式典をどのような内容で進めていく予定なのか伺う。</p> <p>②この竹ノ塚駅付近連続立体交差事業は令和5年度末の事業完了予定となっている。地域の方にとっては新駅舎の供用が開始されれば事業は終了だと思う方が多数いるかもしれないが、事業完了までの今後2年間で事業として何が残っているのか伺う。</p> <p>③竹ノ塚駅が高架化され、東西の町が一体となれば当然今後はまちづくりへの関心が高まる。竹の塚エリアデザイン計画・高架下の利用など今後のまちづくりへの期待は高まる一方だが、懸念材料としては補助第261号線の進捗状況である。一刻も早く補助第261号線の整備を進めてもらいたいが、現在の進捗状況はどうなっているのか伺う。</p>
	<p>2月16日 午前・午後 8時45分受付 質問時間 15分</p>

13 番 くじらい 実

行政区分

質問の要旨

2 政策経営行政

次に、竹の塚エリアデザインについて伺う。

駅の西側は古くから時間の経過とともに家が立ち並んできた町であり、東側は区画整理とUR団地、当時の日本住宅公団の団地とともに発展してきた町である。鉄道を挟んですぐ隣ではあっても生い立ちの違う町はこれまで日頃の交流は盛んとは言えなかった。

高架化と同時に、将来のまちづくりの道標となる竹の塚エリアデザイン計画が示されることを期待していたが、UR団地のストック再生について具体的な計画が示されていないことなどから、3年程度先送りすることになったと聞いている。非常に残念ではあるが、この際、多くの区民がまちづくりに参加し、誇りをもって自慢できる町をつくりあげていくようなエリアデザイン計画の策定を求めたい。

④町の印象は、駅の改札口を出た時の景色に大きく左右されるものである。鉄道高架化完成後の竹ノ塚駅では、改札口から西側に未整備の交通広場とその先に昔からの家並みが見え、東側は交通広場、UR団地とカリロード商店会が目に入ってくると想像できる。一方で竹の塚の町の範囲となると、西側は伊興の寺町や伊興小学校付近まで、東側は3つのUR団地を含む国道4号線あたりまでを一般的にイメージするのではないかと考える。今後、竹の塚のまちづくりを進めるにあたっては、エリアデザインの方針である30年先の将来を見据えながらも、喫緊の課題である体感治安の改善とを合わせて考えながら取り組む必要がある。区として、長期的な視点の取り組みと短期的な視点の取り組みについてどう考えているのか伺う。

⑤次に、竹の塚エリアデザイン計画の策定期間についてであるが、地元の皆さんも議会も、鉄道高架化という悲願が達成できた後、その効果を活かした竹の塚の町の将来像を早く見たいと考えるのは当然である。UR都市機構及び東武鉄道との協議を積極的に進め、できる限り早期に竹の塚エリアデザイン計画の策定を求めるが、区の決意を伺う。

⑥竹の塚の町の将来を考えた時に、区やUR都市機構が計画を策定し、駅前広場の整備や団地の建替えをしても、住民の息遣いを感じられるまちづくりはできないのではないかと考える。竹の塚エリアデザイン計画では、地元区民や事業者も計画段階から関われる協創の理念を取り入れたまちづくりの取り組みを期待するが、区の考えを伺う。

行政区分	質問の要旨
3 危機管理行政	<p>⑦協創のまちづくりについては、地域の良好な環境や価値を維持・向上させるための住民、事業主、地権者等により取り組むエリアマネジメントの手法がある。エリアマネジメントという意味では、現在のところ、民間連携窓口として 2008 年に横浜市が共創フロントという窓口を設置したのをはじめ、約 33 の自治体において民間連携窓口を設置している。例えば、横浜市関内駅前的大通り公園での公民連携の社会実験や、埼玉県横瀬町では企業・団体・個人の方のプロジェクトを横瀬町で取り入れ活用している。そのような先進的な取り組み事例を参考に、竹の塚エリアでもこのエリアマネジメントの手法の導入について研究してはどうか、区のを伺う。</p> <p>⑧区は、竹の塚エリアの体感治安が低い要因について、刑法犯認知件数に加え、駅周辺のごみ、汚れ、駅前周辺や公園のたむろ、自転車利用のマナーなどと捉え、職員が月 1 回程度、駅周辺の見守りを行い、違法駐輪や歩行喫煙の指導、ごみ拾いなどに取り組んでいるとのことである。今後は、これまでの実績をもとに、内容を進化させながら取り組んでもらいたいと考えるがどうか。また、その取り組みの成果、また変化を確認するためにも、設問を工夫しながら体感治安に関する継続的なアンケート調査が必要と考えるが、区の見解を伺う。</p> <p>⑨竹の塚エリアの体感治安が改善されることにより、今後区民また竹の塚エリアの皆様どんなメリットが期待出来るのか区から示してもらおうことも、地域一体となって体感治安の向上を図るモチベーションになるのではないかと考えるが、区の見解を伺う。</p> <p>⑩今後踏切がなくなると赤山街道は東西を繋ぐ重要な路線となる。以前から指摘しているが、現在の西口側、特に前沼交差点からはんの木橋あたりまでは途中で歩道が狭くなっている箇所も存在する。朝夕の通勤時間帯は歩行者と自転車が入り交じって接触しそうな箇所が見受けられるため、赤山街道においても自転車ナビマークを設置するべきだと考えるが区の見解を伺う。</p> <p>II.消防団と連携した避難行動について</p> <p>昨年、10 月 7 日に発生した地震では、足立区でも震度 5 強が観測された。日本全国各地において震度 5 弱以上の地震がこの数年で頻発</p>

13 番 くじらい 実

行政区分

質問の要旨

し、南海トラフ巨大地震、また今後 30 年以内に 70%の確率で発生すると言われている首都直下型地震といった、甚大な被害が懸念される大型地震の予兆かと思われるような状況が日々続いている。首都直下型地震での東京都の被害想定では、足立区においても地震火災で、最大約 16,000 棟の焼失が試算されており、私も所属をしている消防団においても、区内の消防署と連携をした延焼阻止活動、長時間に及ぶ消火活動など実践的な対応力の向上が求められる。また、水害の際にはある程度事前に察知できる大型台風や局地的大雨などの発生時に消防団員として事前の参集、情報収集活動、避難所支援活動などへの従事が求められる。「自分たちのまちは自分たちで守る」という消防団員と連携を取りながら、また今後はより一層地域防災力の強化が求められている。

①消防団員は、ほとんどの方が働きながら消防団の任務を務めており、時間的、環境的な制約を受けている。また、近年はコロナ禍もあり消防団活動自体もままならない状況である。そんな中で、いかに効率よく、効果的な訓練を進めていくかが重要であると思うが、区の見解を伺う。

②現在、福祉部で作成を進めている避難行動要支援者の個別避難計画の中で、要支援者の荷物搬送を支援するなどの消防団員の避難支援について、消防団の本来業務を踏まえつつ、状況に応じて対応することが可能であると聞いているが、現在までの進捗状況はどうか伺う。

③今後、要支援者の個別避難計画に実行性をもたせるために、消防団にも避難支援について理解をしてもらいながら、訓練を推進すべきと考えるが区の見解を伺う。

④現在、旧入谷南小学校跡地利用は災害対策拠点整備となっている。また、アレフ対策住民協議会の皆様をはじめ、地元地域の皆様の活動の場としても必要な施設であると考えている。水害により区役所機能が停止してしまった場合の代替施設として重要な役割を担っているにも関わらず、計画が一向に進んでいない様子なので、民間との連携活用も含めて早急に整備を進めて頂きたいと考えるが、区の見解を伺う。

⑤伊興の地域においては、現在、旧足立清掃事務所伊興分室跡地につ

	13 番 くじらい 実
行政区分	質 問 の 要 旨
	いても、障がい者通所施設の令和 6 年 4 月の施設開設を目指し、計画が進んでいる。周辺住民としては地域の防災拠点としての役割も担ってほしいとの声があるが、防災拠点としての役割を含め、今後について事業者とどのように計画を進めていくのか伺う。